

Sakura

佐倉市の早期景気観測調査

令和5年度第4回(令和6年1～3月)の結果報告

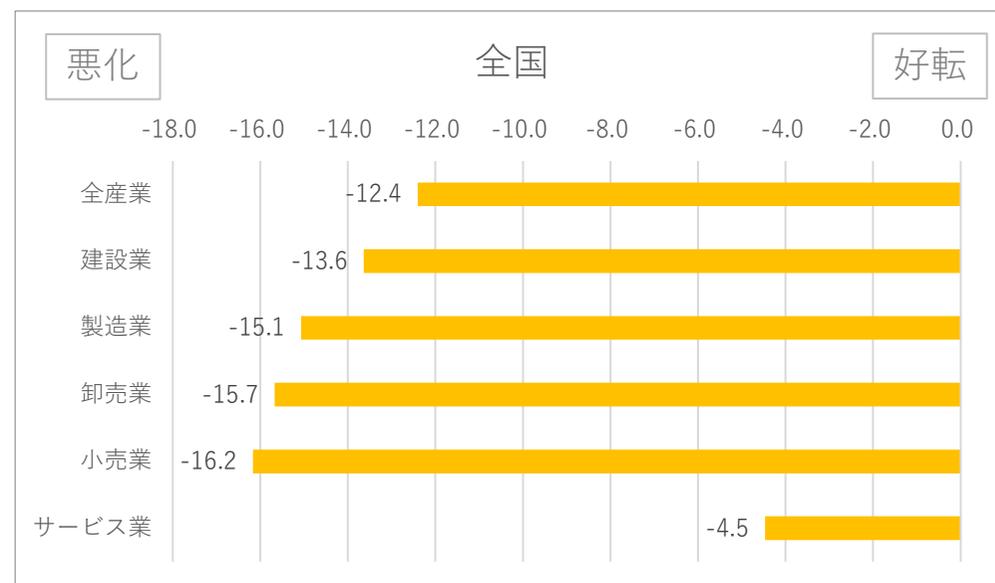
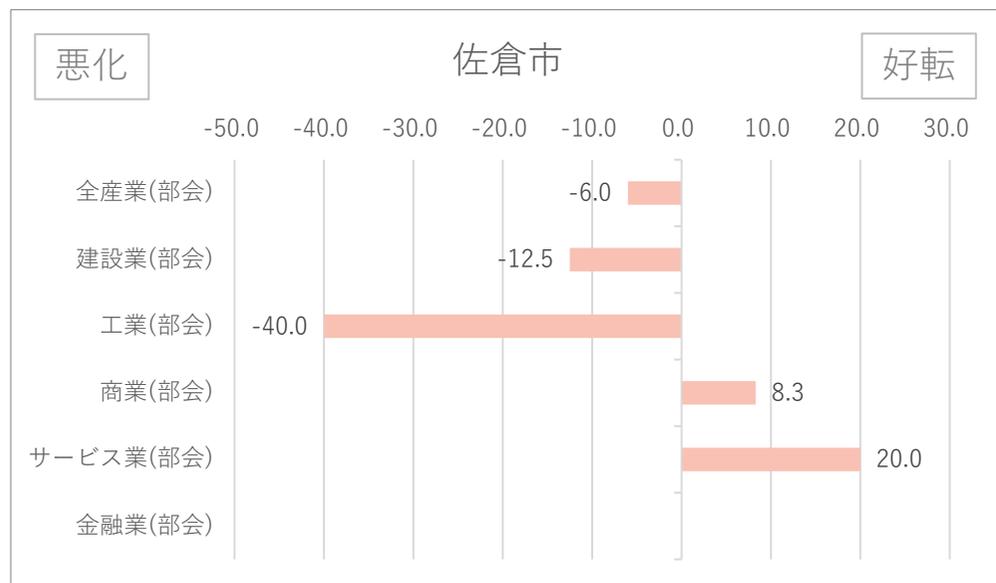
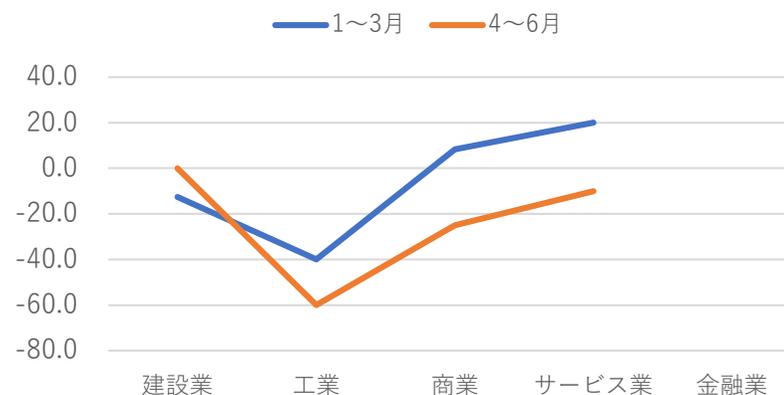


佐倉商工会議所

佐倉市における全産業の業況見通しは、合計で▲6.0（全国比プラス6.4ポイント）となった。全国的に、一層のコスト増加と消費の停滞で業況は悪化している。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)以外でさらなる悪化が見込まれている。人手不足対策や価格転嫁など継続的な課題対応に加え、電気代等の高騰や円安基調によるコストの増加が危惧されており、不安定な国際情勢を不安視する声も聞かれる。

■3ヶ月後の先行き見通し

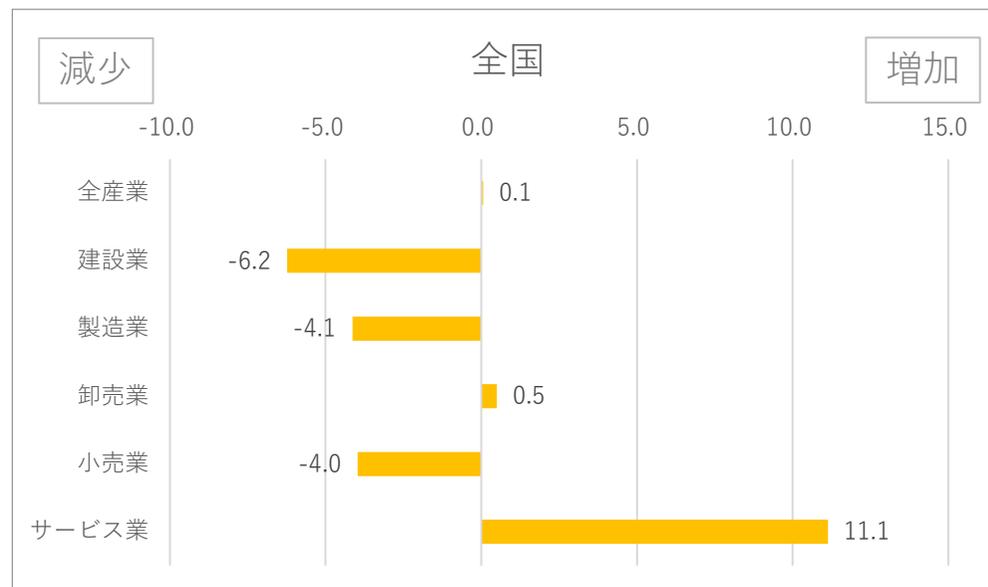
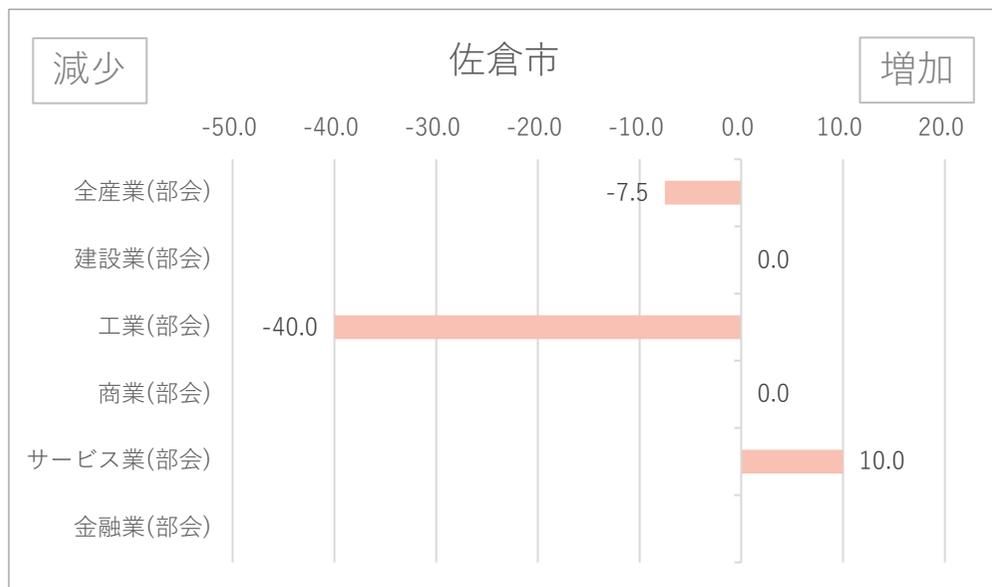
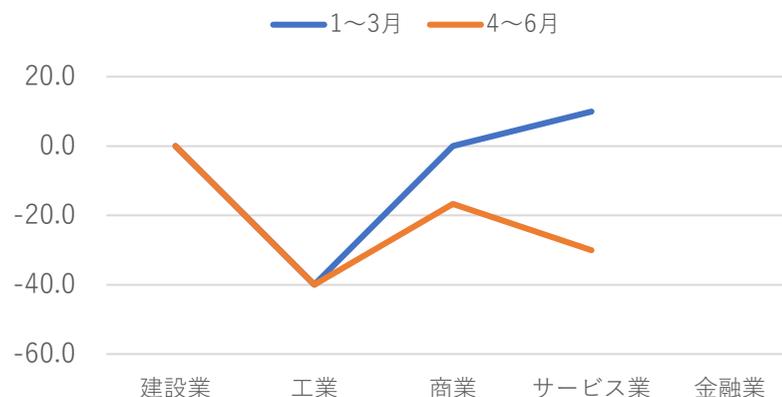


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の売上高見通しは、前回調査から一転して合計で▲7.5（全国比▲7.6ポイント）となった。建設業(部会)は横這いとなった一方で、工業(部会)は▲16.7から▲40.0に減少、増加基調にあった商業(部会)、サービス業(部会)でその幅が大きく減少した。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)や工業(部会)で横這いとなった一方で、商業(部会)やサービス業(部会)がマイナスとなる見通しとなっている。

■3ヶ月後の先行き見通し

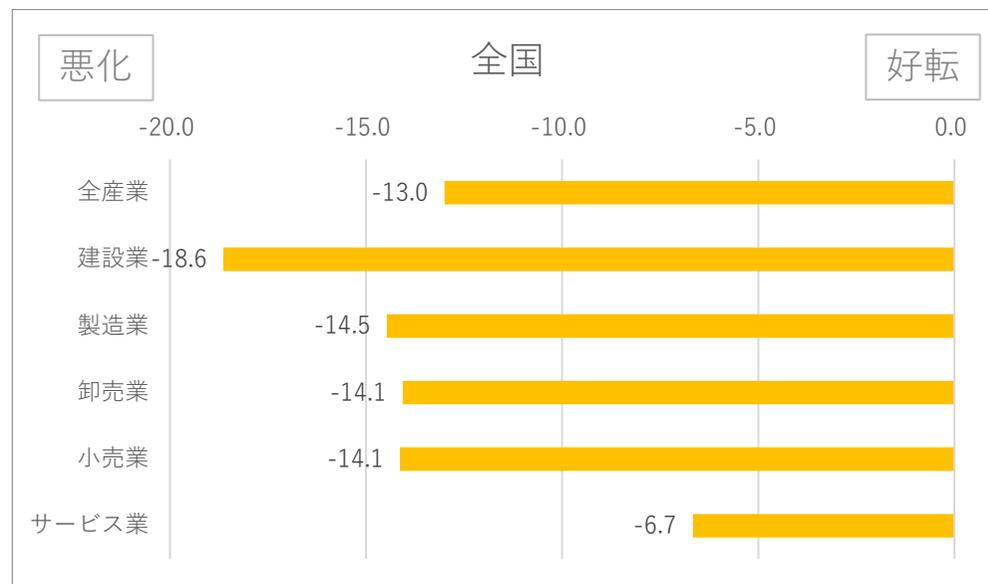
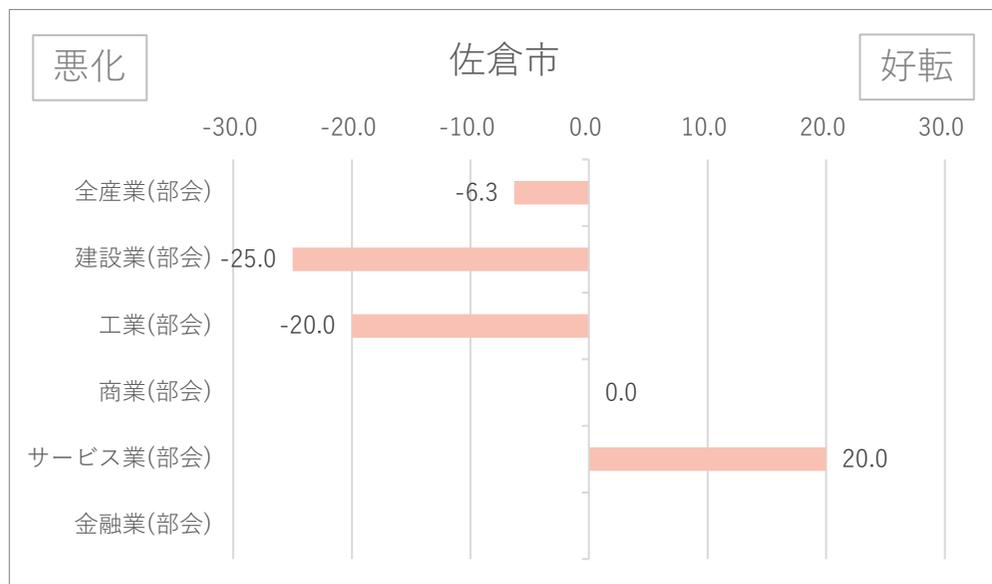
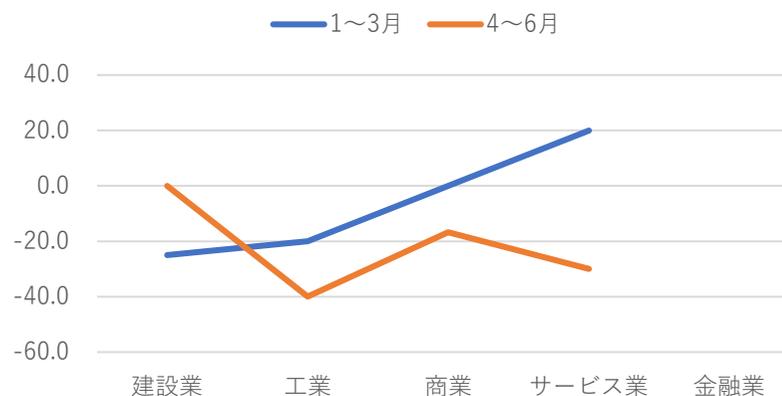


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の採算見通しは、前回調査の14.9から一転し▲6.3の悪化となった。全国では、引き続き全産業でマイナスとなっており、特に建設業は採算性が悪化している。なお、佐倉市ではサービス業(部会)のみ好転だが、前回調査（57.1）から悪化している。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)でやや持ち直すと見込まれているものの、それ以外の全ての業種(部会)において、引き続き軒並み悪化すると見込まれている。

■3ヶ月後の先行き見通し

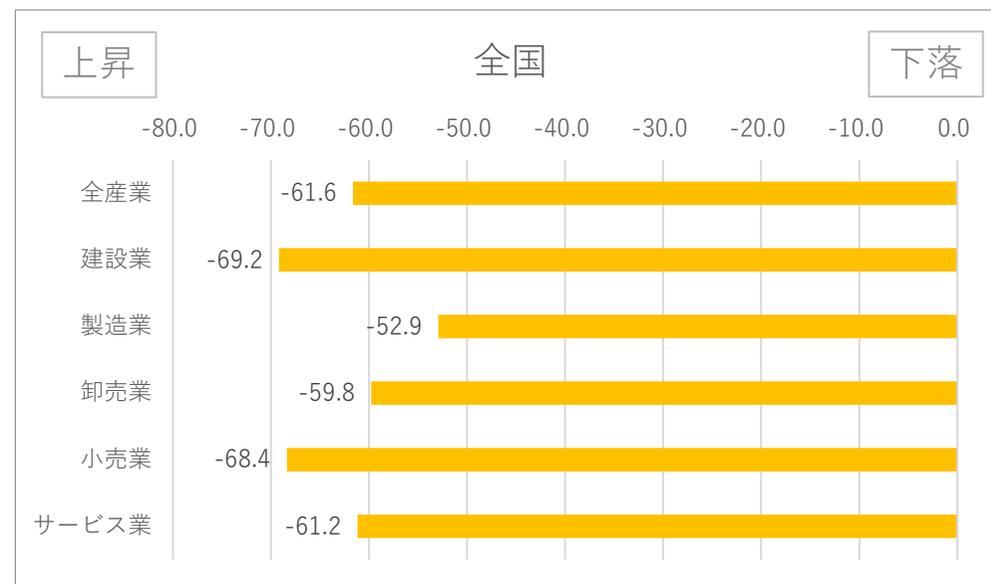
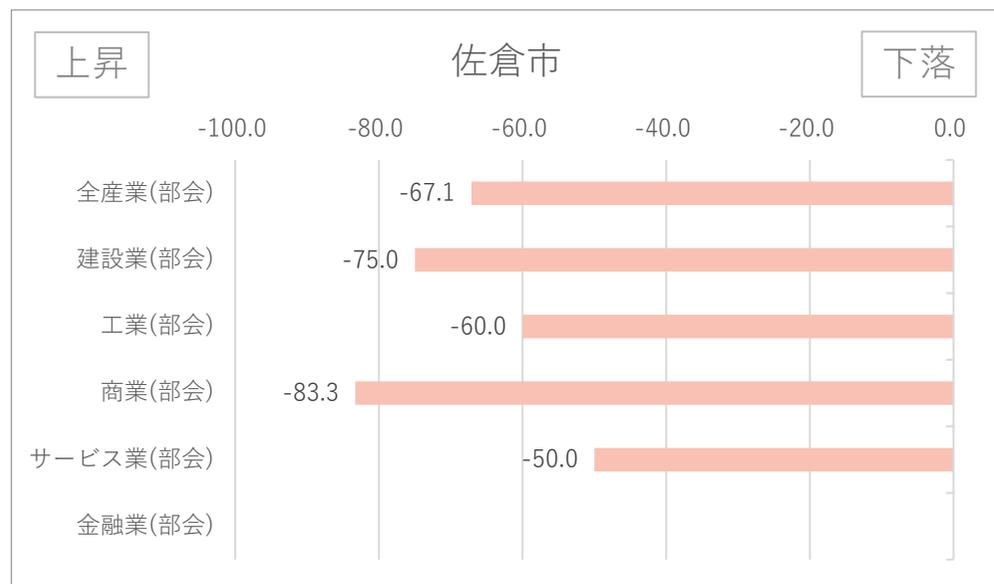
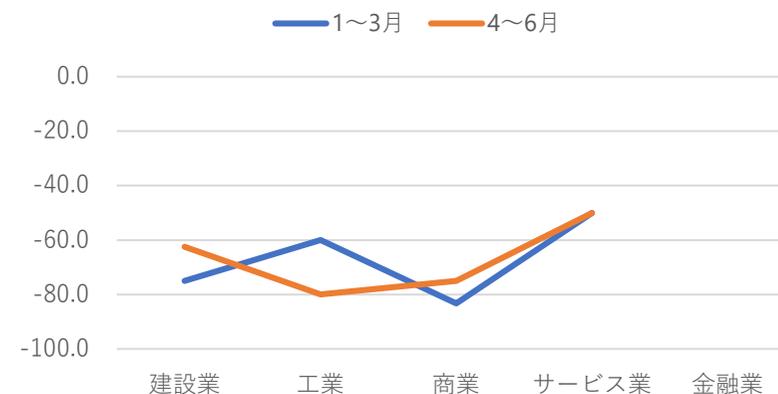


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の仕入れ単価は、第2回調査から引き続いて全体で単価の上昇を懸念する結果となった。全国調査も同様に全産業で単価上昇を示すマイナスとなった。佐倉市では、全産業(部会)の前回調査▲53.1から▲67.1となり、部会別でもほぼすべてがマイナスとなった。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、サービス業(部会)では横這いとなる見通しである一方で、建設業(部会)と商業(部会)では好転、工業(部会)はさらなる悪化となる見通しとなった。

■3ヶ月後の先行き見通し

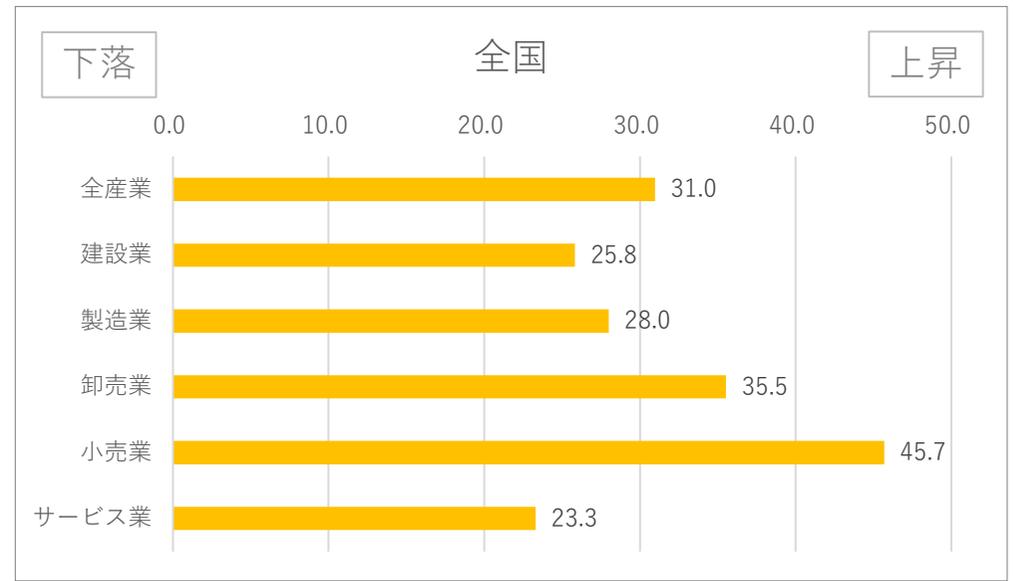
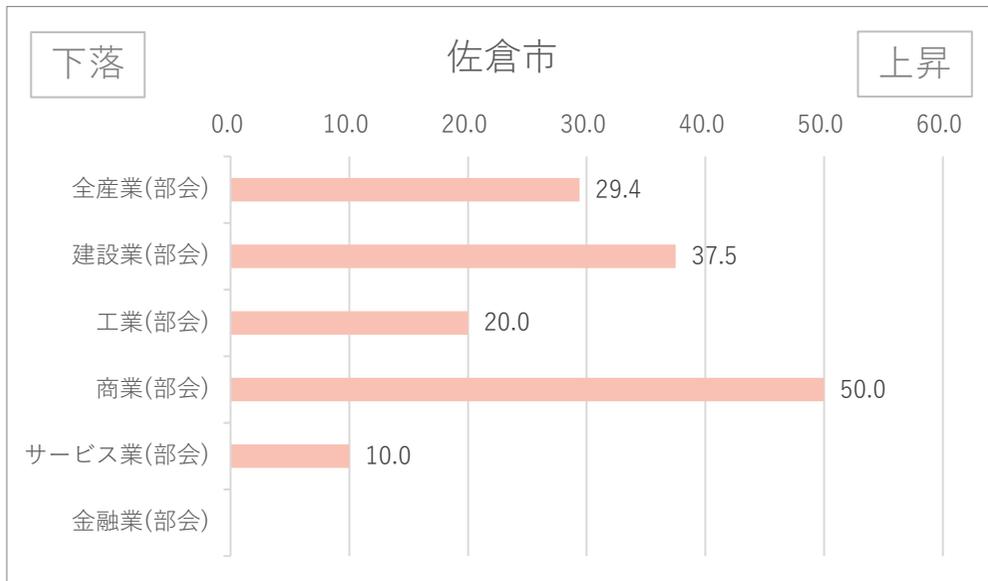
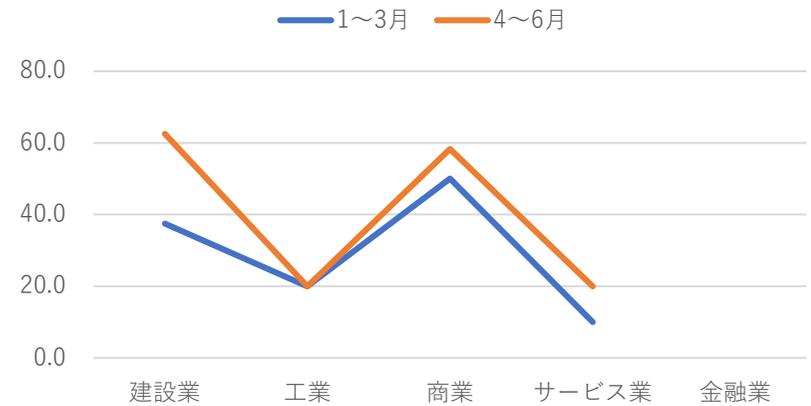


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の販売価格の見通しは、おおむね前回調査と同様の合計で29.4（全国比▲1.6ポイント）となった。全国同様に全ての産業(部会)でプラスとなっている中、工業(部会)やサービス業(部会)では、前回調査に比べて上昇の幅が小さくなっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、工業(部会)で横這いとなった一方で、建設業(部会)、商業(部会)、サービス業(部会)ではさらなる上昇が見込まれる結果となった。

■3ヶ月後の先行き見通し

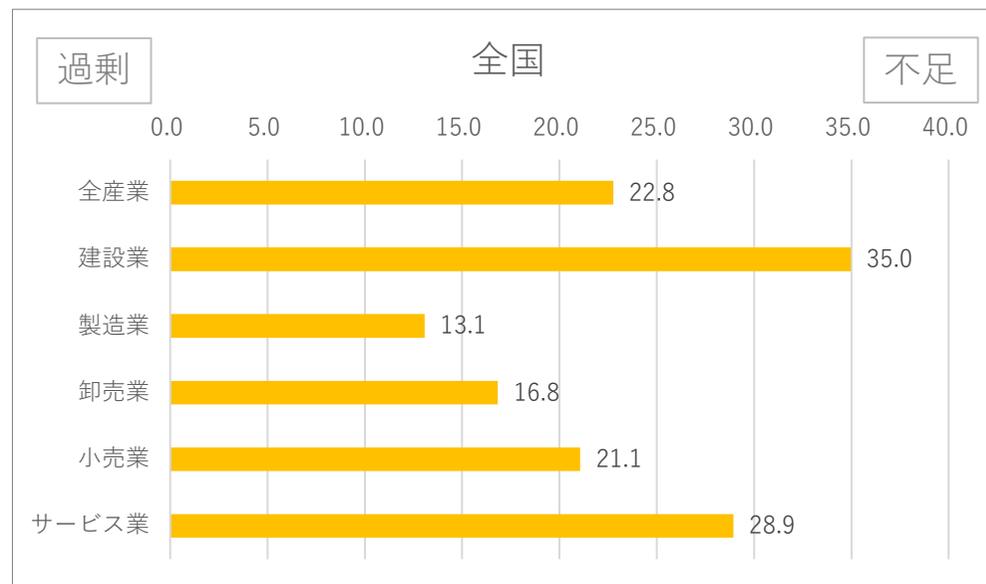
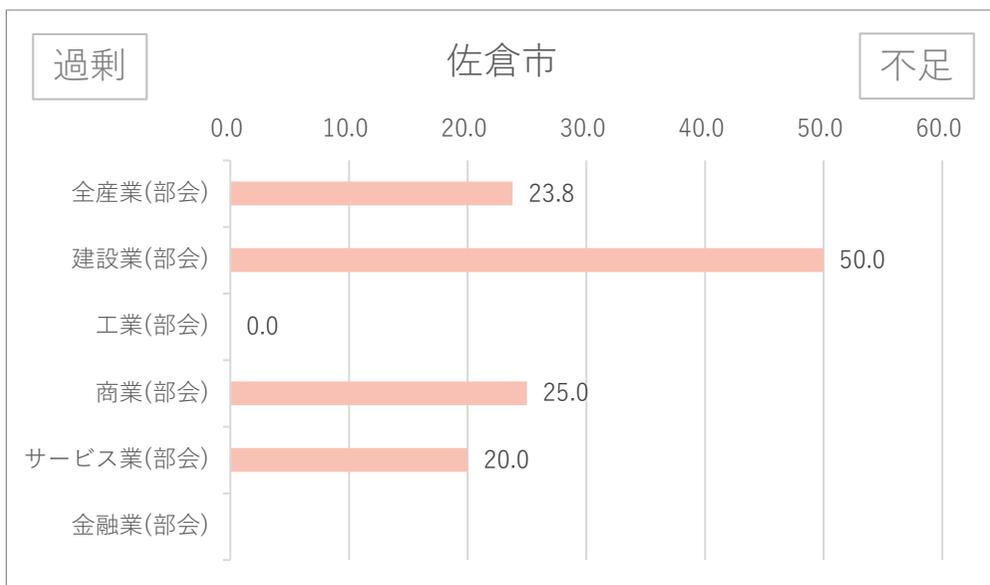
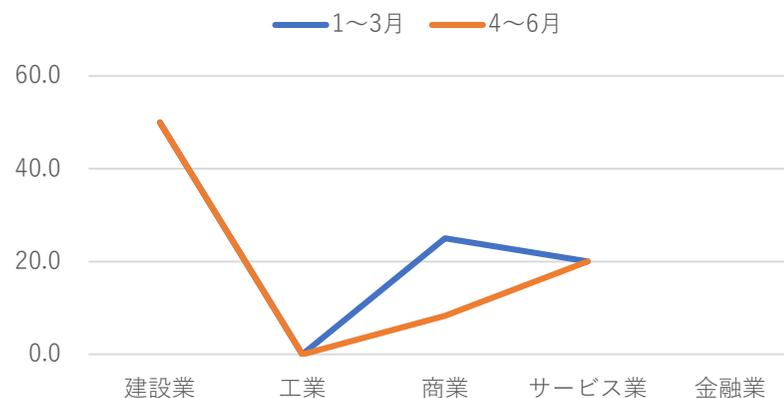


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の従業員の状況は、合計23.8ポイントで全国調査と同様に、不足感が目立つ結果となった。特に建設業(部会)では前回調査から引き続いて不足感を強く示す結果となり、働き方改革関連法の施工に伴い、人手不足の懸念が高まっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)や工業(部会)、サービス業(部会)で横這いが見込まれている一方で、商業(部会)ではやや緩和する見通しとなった。

■3ヶ月後の先行き見通し

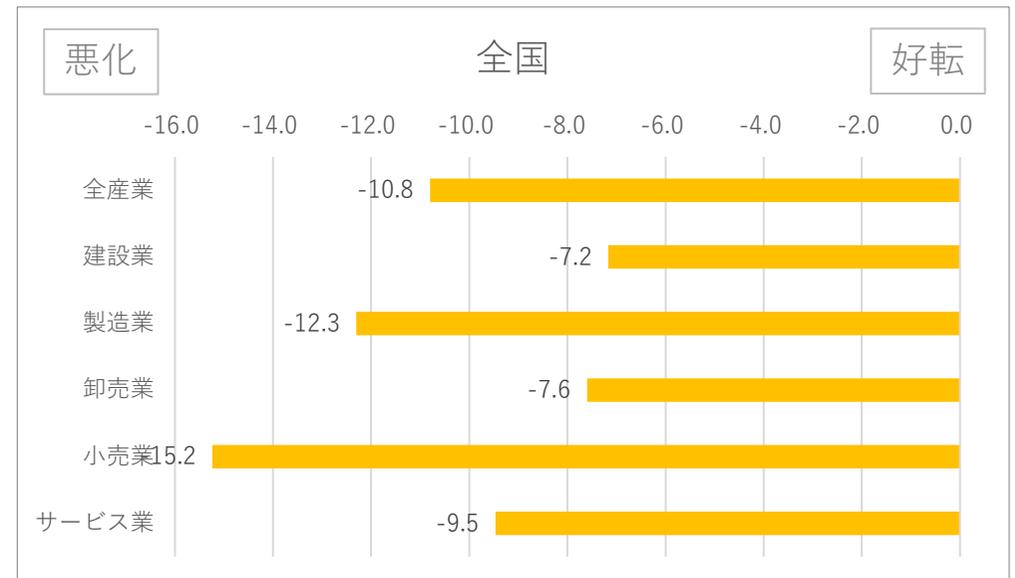
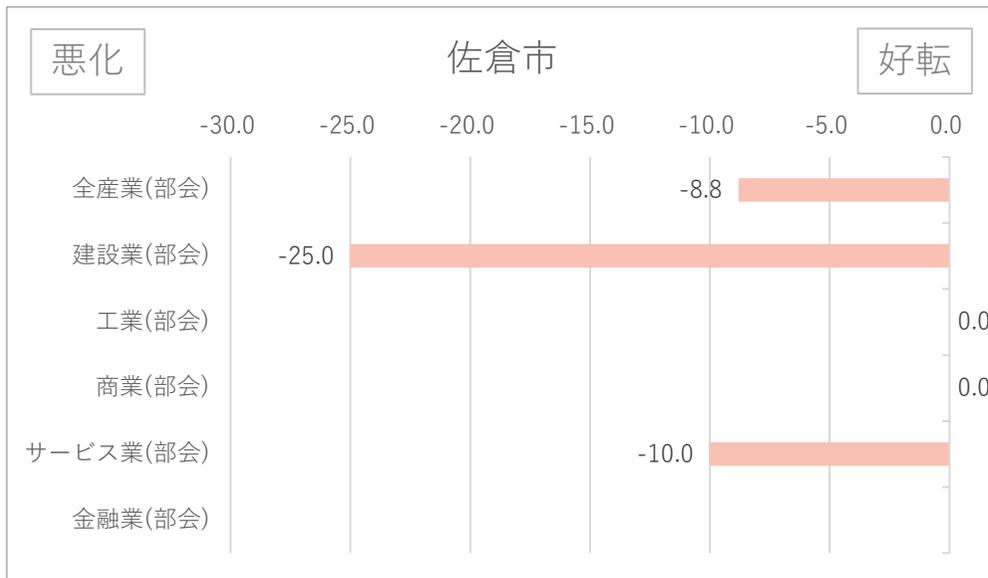
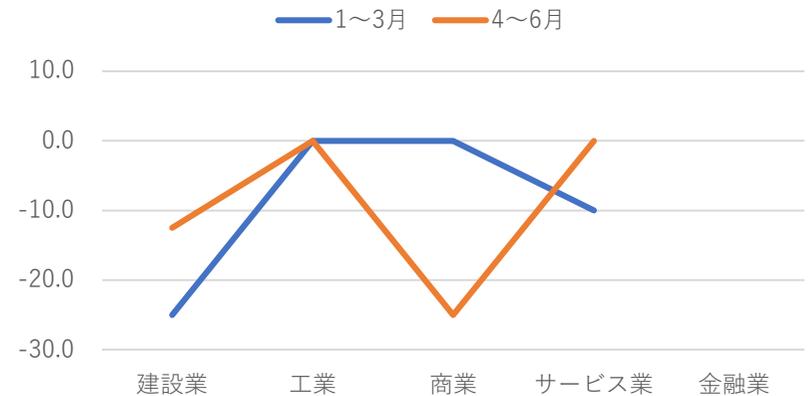


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の資金繰りの状況は、前回調査で好転を示していたサービス業(部会)が悪化となり、工業(部会)と商業(部会)が持ち直したものの全産業(部会)では、▲3.2から▲8.8と悪化した。全国調査でも全産業でさらなる悪化傾向となっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)やサービス業(部会)ではやや持ち直すと見込まれている一方で、商業(部会)では大幅に悪化する見通しとなった。

■3ヶ月後の先行き見通し



※日本商工会議所LOBO調査より

早期景気観測とは

地域の中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を調査し、その結果を集計・公表するもの。QUICK SURVEY SYSTEM OF **LOCAL BUSINESS OUTLOOK** からLOBO調査などと呼ばれる。

調査の目的

企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用すること。

調査の方法

調査依頼をメールにて一斉配信、Googleフォームのアンケートに対する回答入力による回収。

景況判断指数（DI値）とは、業況・売上・採算などの各項目についての判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。【景況判断指数 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)】

調査回答構成比

	商業 部会	工業 部会	建設 業部会	サービス業 部会	金融業 部会
部会員数 構成比	33.65%	7.07%	23.26%	32.75%	3.27%
回答数 構成比	34.29%	14.28%	22.86%	28.57%	0.00%

調査対象期間・回収期間

調査対象期間：令和6年1月～3月（3ヶ月間）

回収期間：令和6年4月1日～5月1日（Googleフォーム）